北部地区医師会主催
ニキ・リンコ氏 自閉症療育講演会報告

名護療育園　泉川　良範

平成20年11月20日（木）に北部地区医師会の主催で開催されたニキ・リンコ氏の講演会に参加したので報告する。ニキ・リンコ氏は、翻訳家である一方、アスペルガー症候群の当事者として全国各地で講演をされており、著書をいくつか出版していることで有名な方である。名護市民会館中ホールで行われた講演会は、「自閉っ子こういう風にできています！～自閉症の身体機能障害と問題行動について～」のタイトルで行われた。この講演会は財団法人沖縄県保健医療福祉事業団の後援をえて、北部地区医師会が主催した。主催者は200人ぐらいの参加者を予想したようだが、当日は立ち見も出る会場一杯の参加者で、発達障害への理解を深める絶好の機会となった。講演に先立ち主催者より、発達障害のうち自閉症とくにアスペルガー症候群などについての概説が行われ、現在さかんに話題になっている発達障害について、それをよく理解することが、一般市民に求められていることなどが述べられた。

ニキ・リンコ氏

司会によりニキ・リンコさんの講演を聞くにあたっての聴衆への注意事項として、拍手をしないこと、フラッシュ撮影などカメラを向けないこと、静かに話を聞く事、講演の後で質疑応答はないことなどがあり、本人の登場は司会による講演開始の宣言の後で、舞台袖からスーっと現れたのであった。

このように一般の講演会とは雰囲気が異なり、聴衆にとっては少なからず戸惑いもあったと思われた。しかし、アスペルガー症候群を理解するには、このような当事者との具体的な出会いが、講演とともに大切であり、障害の理解へとつながると思われた。

講演の内容であるが、タイトルにもあるように自閉症の特徴として身体機能障害に焦点を絞ることで、この障害に新しい視点が提供され、初めて講演を聴く人には非常に有益であったと思われた。すなわち、ニキ・リンコ氏によると、アスペルガー症候群は（少なくとも本人は）、二つの事が同時にできないとのことで、例えば彼女は夜の講演にもかかわらず、黒いサングラスをかけているのであるが、これは会場で好きな色が目につくと、そこに注意がいってしまい話すことができなくなるということであった。実際、主催者の注意にもかかわらずカメラを構えた人がおり、それに気づいた瞬間、彼女は文字通り「フリーズ」してしまった。また、講演の時は、テーブルを前にして椅子に腰掛けて話をしたのであるが、テーブルには布がかけてあり足下が見えないようにしてあった。これは、話をしている間、自分の足の位置を感じることができず、ぶらぶらしてしまって聴衆の気が散ってしまうことを知らされてから、このような対策をとるようになったとのことであった。興味深いエピソードとして、小さい頃近所で柿をごちそうになった時のことがあった。近所のおばさんに柿は好きかと聞かれて「聞いてくる」といって自宅に戻ったというのである。これは、自分の嗜好は、大人（母親）が知っていることであり、大人（母親）が判断する

ものだと感じていたということである。お腹の満腹や空腹も感じることができず、なんでも知っている大人が判断するものと理解していたとのことであった。つまり、「暑い、熱がある、空腹、おいしい、疲れている」などの特異的感覚が、平均的な人たちの平均的な感じ方とかなりずれているとのことである。この事実を知ることで、今は対処法を何とか身につけているとのことであるが、苦労も多いようであった。これが、彼女の言う「身体機能障害」である。心や精神でなく身体の機能障害としてのアスペルガー症候群の捉え方を具体的に話してくれたことで、多くの聴衆の目からうろこが落ちたようであった。

講演を終えての感想は、障害者への支援は、障害者の生活上の「困り」を理解することから始まると思われるが、ニキ・リンコ氏の講演はまさに、それを具体的に教えてくれるもので大変有益であった。後日、私の外来に来られたアスペルガー症候群の子育てに奮闘している母親が、「あの講演で自分の子供の気持ちが少しわかったような気がする」とにこやかに話していた。このような講演会が県内各地で今後とも持たれる事を期待する。昨年度から特別支援教育が本格施行されており、まさに北部地区医師会の時宜を得た講演会であった。

お知らせ

こんな電話にご注意を！！

勤務医師の実家に、宅配便会社の名を語り、「貴家のご子息・ご令嬢宛に日本医師会から、直接、本人に渡すべき届け物があるので、勤務先・住所・電話番号を教えて欲しい」などの“問い合わせ電話”が頻発しています。

本会が警察に相談したところ、「医学生時代の名簿を使った『振込み詐欺』に発展する可能性があるので、取り合わないことが大事」との回答でした。

会員の皆様は、くれぐれもご注意ください。

日本医師会